

週刊新社会

2月6日



2018年号外
野田市版

振替 00140-0-149727 1ヵ月 600円 1部 150円 41円
http://www.sinsyakai.or.jp/
発行所：新社会党 E-mail/honbu@sinsyakai.or.jp

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 三辰工業ビル3F Tel. 03-6380-9960 Fax. 03-6380-9963

貧困対策を自治体の
優先課題に

専任講師化拒否の中央学院大学 ひどさ訴え市民と連帯へ

昨年大学創建50周年を迎えた
我孫子市にある中央学院大学で、
常勤（専任）講師にしろとの裁判
が続いている。

原告は20年以上も非常勤講師
として、専任教員の1/6の報酬（年
200万円）で働いている小林勝さん。
法的な根拠は労働契約法第20
条「期間の定めがあることによる
不合理な労働条件の禁止」。

同じように学生に講義等をして
報酬が1/6は合理的とは言えない
のではと、東京地裁の裁判長が被告、
大学側に専任化できないかと
和解提案するほどのひどさである。
しかし、被告は頑として受け付け

ないため、JR我
孫子駅で1日早
朝、市民と通勤し
てくる大学教員に
向けてアピールし
たのが右の写真。

その中央右側が原告の小林勝さん。

これまで次は専任化するからと
専門外の授業も持たされ、教授の
研究論文を手伝わされてきた。全
国教職員組合をつくって団交を行
ってきたが、60代半ばになって
これ以上待てないとして裁判に訴
えている。

現在、国立、私立を問わずこう
した非常勤講師が大学教育を支え
ている。しかし、5年以上継続し
て有期雇用を繰り返しているなら



無期雇用転換を申し込むことがで
きる今年4月を目前に、逆に非常
勤職員を切り捨てる動きが新聞等
をにぎわしている。

非正規労働者の存在はその人の
生存の不安定はもちろん、正規勞
働者の賃金・労働条件の低下に連
動する。そして本来連帯、団結す
るべき正規職と非正規職の反目は
経営側を有利にし、富の偏在（独
占）と貧困を拡大し、社会の不安
定さと劣化につながる。



常磐線で若い父親がベビーカー
を押して乗ってきた。ふと見ると
直径30センチくらいの丸い円盤
がぶら下がっている。そこには「私
は障がいがあります。困ったとき
は手をかして下さい」とあった。

降りるときに見えたベビーカー
の子は4、5歳くらいの男の子だ
た。

ILOの警告と提言 賃金格差合計8倍増

ILO（国際労働機関）は
2015年版の「世界の雇用・社会
見通し」で、正規雇用と非正規雇
用の賃金格差を是正すれば世界で
3兆7千億ドルの経済効果がある
との試算をしている。

その中で賃金格差の合計は2008
年には1580億ドルだったが、金
融危機後に急速に増大し、13年
は1兆2180億ドルに達したと指
摘している。ILOはとりわけ女性
労働者にそのしわ寄せがいつい

ることを問題視している。

このような賃金の引き下げは景
気を冷やして投資機会を奪って
おり、こうしたことを解消すれば
世界のGDPを3.6%押し上げ、税
収増もにつながると提言している。

しかし、そのようなことを個別
の経営者が対応するはずがない。
自社の利益こそが中心だからだ。
だから政府がこうした提言を受け
止めなくてはならない。最初の一
歩は最賃1500円への引上げだ。

環境経済委視察報告 先進地にはそうなった理由がある

前号に続いて議会常任委員会の行政視察報告を要約して紹介する。

環境経済委員会（石原義雄委員長）は昨年 5 月 17 日から 19 日にかけて、岩手県北上市（企業誘致）、秋田県横手市（食と農からのまちづくり（発酵文化））、同県湯沢市（農業振興施策〈パルシステム・秋田南部圏食と農推進協議会〉）を視察。

企業誘致で実績とたゆまぬ努力

北上市は前市長が企業誘致の

トップセールスを展開し、多くの実績で有名。工場の海外移転の動きにも機敏に動き、地域産業の高度化支援などにも積極的である。

野田市は多くの優良工場が工業団地等から撤退しており、大きな課題となっている。視察結果をどう生かせるのか、議会の構想力も問われよう。

2つの担当課で農政推進

食と農の政策を学んだ横手市には農業ブランド創造課やマーケティング推進課があり、農産物の

ブランド化や消費者のニーズ把握などに努めている。海外展開も積極的で、香港やソウルにもプロモーションしている。

生協との連携で農業推進

湯沢市では減農薬と有機農業の現状を知るとともに、市と J A、パルシステム生協などと設立した食と農推進協議会を学んだ。

これは都市と農村の交流や商品開発などを行うもの。パルシステム本部や千葉、東京の各生協を通じた産直取引などで、安定的な販路や流通システムをつくっている。

野田市もパルシステムが活動しており、移動販売車まごころ便で協力関係にある。生協は安全安心な農産物販売が売りであり、しかも安定した販路である。

遠方に行って足元を見直すことになったといえるのではないが。

高架事業と野田駅西側区画整理概要

野田市駅の出入り口が変更になり、高架事業区間は今年度中に仮線切替を済ませる。その後鉄道と愛宕、野田市の両駅舎が高架化し、その完成を 20 年度中と見込んでいる。

また、野田市駅前西側は並行して区画整理事業が行われている

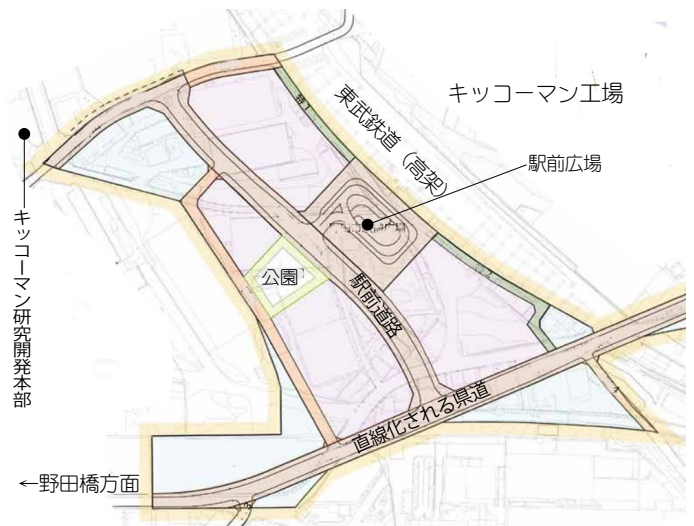
（図 1、図 2：野田市資料から）。

区画整理事業の主な内容は、施行者は野田市、面積約 6 ヘクタールで事業費は 50 億円。完成年度は 20 年度を予定している。4500 m²の駅前広場と 1800 m²の公園、それをはさんで線路に並行する駅前線を持つ。現在の曲がった県道は施行区域内では直線化される。

図 1 野田市駅西土地区画整理事業完成イメージ（変更はあり得る）



図 2 野田市駅西土地区画整理事業 平面図



未来をつくる千葉 7 区市民連合・野田が 3000 万署名活動を開始した。毎週金曜日午後 5 時～6 時の予定で、梅郷、愛宕、川間の各駅で行う。写真は 2 日、梅郷駅での署名風景。